「今日の説教、聴き手のために」　2013/1/20　明治学院教会(300)

(このプリントは毎週作っているものです)　牧師　岩井健作

「子育てと聖書」　出エジプト20章1章1節－17節

選句　「成長させてくださるのは神です」(コリント1　3章7節)。

1、今日は大学が「センター試験会場」でチャペルが使えないので、ここの保育園をお借りしての礼拝です。感謝です。このホールで私は月1回、ここの3歳から5歳の園児に幼児礼拝のお話をさせて戴いています。大きな意味では、聖書の価値観が子供たちを通して、家庭にまで伝わるようにという祈りを持っています。聖書の価値観とは何でしょうか。端的に、「お金」ではなく「いのち」が大事だということです。「いのち」とは聖書ではイエスの言葉にあるように「神を愛し、また隣人を自分のように愛する」(マルコ 12:33)という「(人格の)関係に生きる」ことです。これはもともと「十戒」(出20:1-17,讃美歌 21-93-3)の精神です。イエスはこれを「愛神愛隣」に簡潔にまとめました。ちょっと難しい表現をさせて頂くと、「お金」は対象化(物化)された価値です。「いのち」は対象化されない人格の関係(愛)そのものを築くことです。それが「神の創造」、「イエス・キリストによる和解」、それ(恵み、福音)に基づく「倫理(モラル)の構築」といった出来事の総体を含んでいます。幼児礼拝では、子供たちに聖書のイメージが残るように、僕の手製の木の「十字架」を置き、ローソク(世の光の象徴)を灯し、聖書を開いておいて、お話をします。

2、日本の近代は「富国強兵」が価値観であり、現今の権力者側は日米安保に基づく「新自由主義」と「軍事」優位の価値観です。しかし、もう一方で第二次大戦(太平洋戦争)の犠牲を基に出来た「日本国憲法」の「国際平和主義、主権在民、基本的人権、政教分離」の価値観を実現するための闘いが続けられています。この「憲法」は聖書の価値観のヴァリエイション(変化)だと私には考えられます。そういう意味で、たとえ幼児へのお話といえども、歴史の文脈を底流に意識して、怒濤のような世俗の「お金」を中心とした「競争」「差別」「軍事(核)」の価値観への挑戦として、続けさせてい頂いています。

3、42年間(1960-2001)幼児教育にたずさわらせて頂いた間に、たくさんの恵みを受けました。思い出、エピソードは尽きません。3歳児のふみあきくんがホームで発車までの間、手を振って園長を送ってくれた姿が目に焼き付いています。お母さんが次の子の出産で、送り迎えは、郷里から来たおばあさんがしていました。「この子はこの頃、お家で、幼稚園でするお祈りをちゃんとするんですよ」「毎日絵本を園から借り、私も読み聞かせに動員されています」。祈りの手は宗教性(謙虚)を、本をしっかり抱える手は自立性(ひたむき)を、そして園長に何時までも振ってくれた手は社会性(優しさ)を表しています。骨格の太い心の成長をしている子です。家庭がキリスト教教育を信頼しているからこそ実っているのです。「成長させてくださるのは神です」という聖書の言葉が身に沁みます。明治学院教会が地域の YMCA の保育園と関わりを持って(大学のチャペルで保育園のクリスマスが行われるなど)いることは、神の恵みだと感謝しています。

この保育園の園児・家庭・職員(保育者)に神の導きと祝福をお祈りします。